



先日、紅葉を期待して奥多摩へ行ってきましたが、まだ木々の葉はあまり色付いていませんでした。年平均気温の上昇に伴い、紅葉シーズンは例年より毎年遅れ気味で、ここにも地球温暖化の影響が現れているようです。敏感な自然の声を聞きとり、私たちにできる、明日ではない今日からのエコの緊急性を感じました。

☆ Environmental column ☆

フェイズ I 評価の規格化の動き—その 4[ASTM フェイズ I・II の構成]

今回からは、ASTM の環境サイトアセスメントの内容について記述する。なお、2005 年および 2006 年の改定についてはその後に記述することとした。

ASTM フェイズ I・II は、土壤汚染の環境リスクアセスメントを行う全てのサイトに適用される。調査は、当該地に加えて、当該地が周囲にもたらす環境リスク、および周囲から受ける環境リスクも対象とするために、周辺も調査の対象とする。対象物質は当該地および周辺で使用された可能性のある有害物質および石油製品であるが、当事者が協議して対象物質を決定する。スーパーファンド法では 800 種類以上の物質が有害物質として規定されており、特に優先物質として約 270 以上の物質が指定されている。石油製品については、米国では元々石油製品による土壤汚染が一般社会に多く存在していたために、フェイズ I 調査の範囲に含まれている。

ASTM 環境サイトアセスメント (Environmental Site Assessment : 以下、ESA) の基本的な手順は図-1 の通である。

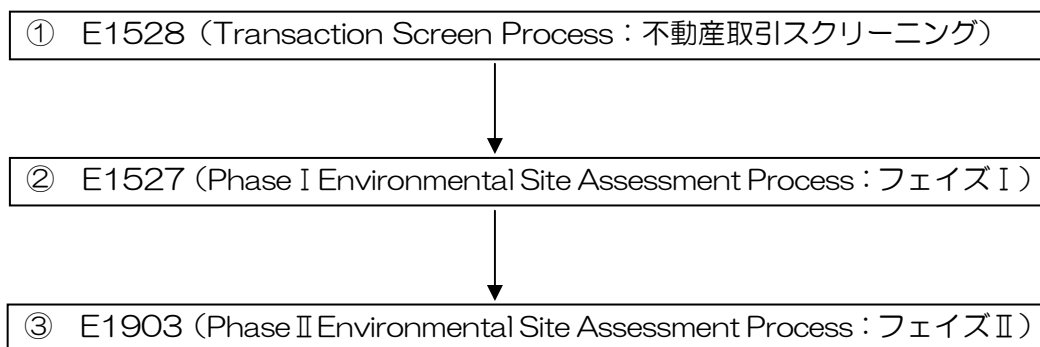


図-1 ASTM 環境サイトアセスメントの手順

- ① E1528 は、規格化された不動産取引スクリーニング質問表 (Transaction screen questionnaire) に従って聞き取り調査を主体として行う。目的はその不動産における土壤汚染が生じる可能性のある状況 (Recognized Environmental Conditions : 認定環境状態、略称 : RECs) を推定することにある。
- ② E1527 がいわゆるフェイズ I であり、資料等調査 (Records Review)、現地立入調査 (Site Reconnaissance)、聞き取り調査 (Interviews)、および評価と報告 (Evaluation and Report) により構成されている。目的はその不動産の RECs を特定することにあるが、土壤試料の採取とその分析は要求されていない。
- ③ E1903 は、RECs を確認することを目的として土壤試料の採取とその分析を行う、いわゆるフェイズ II である。

ASTM の手順では、各段階において土壤汚染の存在によるリスクの有無を評価することが認められている。例えば、E1528 に基づく聞き取り調査によって RECs の存在が推定できない場合は、

“土壌汚染によるリスクは存在しない”と評価することができる。フェイズⅠの結果、RECsが特定できない場合も、“土壌汚染によるリスクは存在しない”と評価される。フェイズⅡでは土壌汚染のメカニズムを確認するために三次元的な汚染状況の情報が必要であり、ボーリングによる試料採取とその分析が不可欠である。因みに、わが国の土壌汚染対策法では、土壌汚染の有無については指定基準との対照が必要であり、フェイズⅡまでの手法が必要である。

なお、2006年の改訂によって、E1528はスーパーファンド法の下での土地所有者の責任保護（Landowner Liability Protections、略称：LLPs）を目的とした場合には、適用できないと定められ、フェイズⅠに満たない限定的なデューデリジェンスに限って適用されることとなった。つまり、E1528は2006年の改訂前まではフェイズⅠの一部であったが、改訂によってフェイズⅠの対象外となった。

アースアプライザル 技術顧問 西田 道夫 技術士（応用理学・建設）

☆アスベスト対策環境展(ASBEX Environment)'07が閉幕しました☆

アースアプライザルは、10月17日から19日にかけて昨年に引き続き東京ビックサイトで開催されました「アスベスト対策環境展'07」に出展致しました。ブースでは、偏光顕微鏡によるアスベストの分析の実演とアスベストの調査、管理・対策のサービスの詳細説明を行い、出展者プレゼンテーションでは「コストパフォーマンスを重視したアスベスト調査・対策」講演を行いました。今年のアスベスト対策環境展は、昨年と比較してブースの出展数は少なくなりましたが、アースアプライザルのブースは昨年を大幅に上回る来訪者がありました。

ブースを訪問、講演を聴講して下さった方々は、建築物に含まれるアスベストの管理方法について関心が高く、弊社では新たなアスベスト対策方法として、除去等工事を行わない管理方法の“アスベストマネジメントプログラム”の有効性をご説明いたしました。

また、EFAラボラトリーズの最短1日のアスベスト分析にも、関心が寄せられました。

今回のアスベスト対策環境展で、あらためてアスベスト対策に関する社会的なニーズが高いことを感じました。アースアプライザルでは、皆様に今後も効率的なアスベスト調査、管理・対策をご提供していきます。

今回のEAnetworkいかがでしたでしょうか。このニュースレターへの感想や土壌汚染に関するご質問など、お気軽にFax または eanews@earth-app.co.jpまでご連絡ください。

このEAnetworkは、過去に弊社セミナーにご参加いただいた方及び弊社へ調査のご依頼を頂いたお客様にお送りしております。以後メールマガジンでの配信希望の方は、下記にチェックの上FAXにてご返送、またはeanews@earth-app.co.jpまでご連絡ください。

弊社の個人情報保護に関する基本方針は、弊社ホームページに掲載しております(<http://www.earth-app.co.jp/privacypolicy.htm>)。個人利用に関して同意いただけない場合、また、今後配信を希望されない方は、お手数ですが同様にご連絡ください。基本方針に基づき、責任を持って登録を削除させていただきます。

株式会社アースアプライザル

編集者：藤井史枝

伊藤祥子

TEL: 03-5298-2151

FAX 03-3252-5411

会社名

お客様名

次回の配信から、メールマガジンでの配信希望 e-mail:

次回の配信を希望しない

コメント

アースアプライザルグループおよび業務提携先

札幌アースアプライザル（北海道）、中央開発・基礎地盤コンサルタンツ・ジオテック・りんかい日産建設・協和地下開発・神港サービス（関東）、アイエーシー（神奈川）、細野建設（長野）、トーエネック・フルエング・東邦地水（中部）、建設基礎調査設計事務所（静岡）、阪神測建（関西）、三協エンジニア（奈良）、エイトコンサルタント（岡山）、復建調査設計（広島）、藤井基礎設計事務所（島根）、日本地研・アースアプライザル九州（福岡）、リサイクルワン、アースアプライザルGF（大阪）